

開館 5 周年記念企画展の開催にあたって

大仙市アーカイブズは令和 3 年 5 月 3 日に開館 5 年目を迎えました。

この 5 年の当館の活動を振り返ってみますと、開館直後の平成 29 年 7 月に豪雨災害が発生し、淀川保育園の園児たちの記録などの被災資料レスキュー活動を行い、地域の記録の消失や散逸へのストッパーとしての役割を改めて実感いたしました。また、昨年来の世界的な新型コロナウイルスのパンデミック発生は、私たちの生活を一変する大きな出来事となったと言え、このような歴史的な変革をどう記録し残していくのか、を問われているのではないのでしょうか。

こうした当館を取り巻く環境だけではなく、今年は東日本大震災から 10 年、太平洋戦争開戦から 80 年という節目の年でもあります。こうした過去の歴史的な変革を振り返り、現在の状況を改めて見つめ直し、未来へ生かしていくことは、現代を生きる私たちの使命です。そして、アーカイブズはこれらの記録を残し、伝え、未来に生かす役割を担っています。

開館 5 周年記念企画展では「ふるさとの災害 ～記録が語る地震・水害・戦争～」をテーマに、過去の地域に大きな影響をもたらした出来事に学び、現在、そして未来の地域にどう生かすのか、こうしたことを考える機会にできればと思います。

大仙市アーカイブズ館長

自然災害

私たちは日々のなかで、地震・津波・水害などの自然災害と闘いながら生活をしています。先人たちは過去の災害から学び、災害に強いまちづくりを進めてきました。大仙地域では近代以降、陸羽地震（明治29年）や強首地震（大正3年）などの大規模な地震災害を経験し、豪雪や雄物川の氾濫などと闘いながら生活しています。災害の記録は私たちに何を語るのか、その歴史を紐解きます。



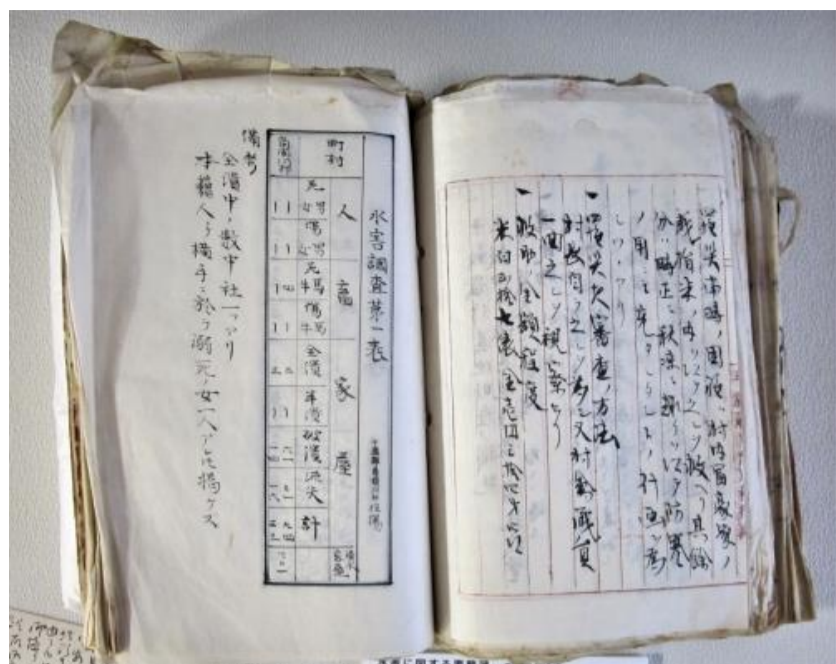
主な水害の記録（雄物川流域）

洪水生起年月	気象状況	基準地点椿川		被害状況（雄物川流域全て） ※死者・行方不明者、流失・全壊戸数には土砂災害を含む場合がある（昭和30年代以前は内訳不明） 床上浸水戸数、床下浸水戸数には内水によるものを含む
		流域平均 2日雨量 (mm)	ピーク流量 (実績流量) (m ³ /s)	
明治27年8月	前線の停滞	－	－	死者・行方不明者334名、流失・全壊戸数1,594戸、浸水18,947戸
明治43年9月	前線の停滞	206	－	流失・全壊戸数6戸、床上浸水5,247戸、床下浸水2,770戸
昭和19年7月	前線の停滞	222	－	死者11名、流失・全壊戸数19戸、浸水家屋7,279戸
昭和22年7月	前線の停滞	238	－	死者11名、流失・全壊戸数308戸、床上浸水13,102戸、床下浸水12,259戸
昭和22年8月	前線の停滞	158	－	死者7名、流失・全壊戸数113戸、床上浸水4,335戸、床下浸水7,631戸
昭和30年6月	前線の停滞	156	3,811	死者・行方不明者8名、流失・全壊戸数23戸、床上浸水11,522戸、床下浸水21,067戸
昭和40年7月	前線の停滞	126	2,807	流失・全壊戸数9戸、床上浸水2,885戸、床下浸水10,162戸
昭和41年7月	前線の停滞	132	2,218	床上浸水255戸、床下浸水1,181戸
昭和44年7月	前線の停滞	142	2,485	床上浸水158戸、床下浸水2,147戸
昭和47年7月	前線の停滞	182	3,298	流失・全壊戸数4戸、床上浸水1,465戸、床下浸水3,439戸
昭和54年8月	前線の停滞	135	2,693	流失・全壊戸数1戸、床上浸水77戸、床下浸水1,001戸
昭和56年8月	台風15号	126	2,283	床上浸水2戸、床下浸水9戸
昭和62年8月	前線の停滞	157	3,258	床上浸水534戸、床下浸水1,040戸
平成14年8月	前線の停滞	126	2,303	床上浸水159戸、床下浸水351戸
平成19年9月	前線の停滞	157	3,121	床上浸水35戸、床下浸水238戸
平成23年6月	前線の停滞	168	3,463	全壊戸数1戸（土砂災害によるもの）、床上浸水120戸、床下浸水325戸
平成29年7月	前線の停滞	220	3,940	全壊家屋数3棟、半壊家屋数39棟、床上浸水651棟、床下浸水1,511棟
平成29年8月	前線の停滞	120		床上浸水12棟、床下浸水85棟

参考

- ・国土交通省 東北地域整備局 成瀬ダム建設事務所ホームページ(<https://www.thr.mlit.go.jp/narusedam/knowledge/qa2-1.html>)
- ・第12回雄物川水系河川整備計画学識者懇談会資料
- ・秋田県防災ポータルサイト「平成29年8月24日からの大雨による被害状況について」 (https://www.bousai-akita.jp/pages/index.html?article_id=360)

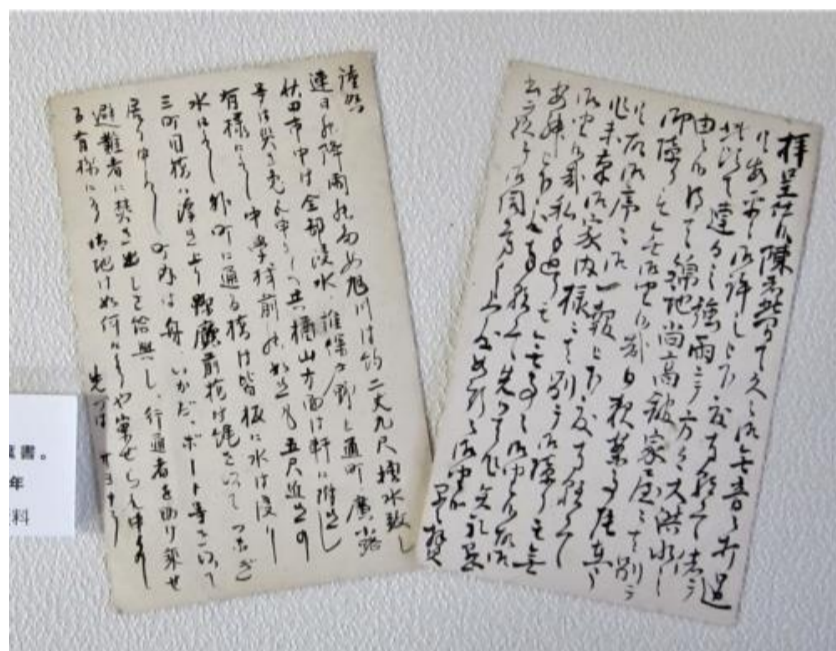
展示資料の紹介



水害に関する事務簿 角間川村役場 (明治 27 年～)

行方不明者 334 名を出した明治 27 年の洪水被害の様子が書かれている。角間川では死者行方不明者は出ていないが、流れ着いた溺死者についての記載がある。

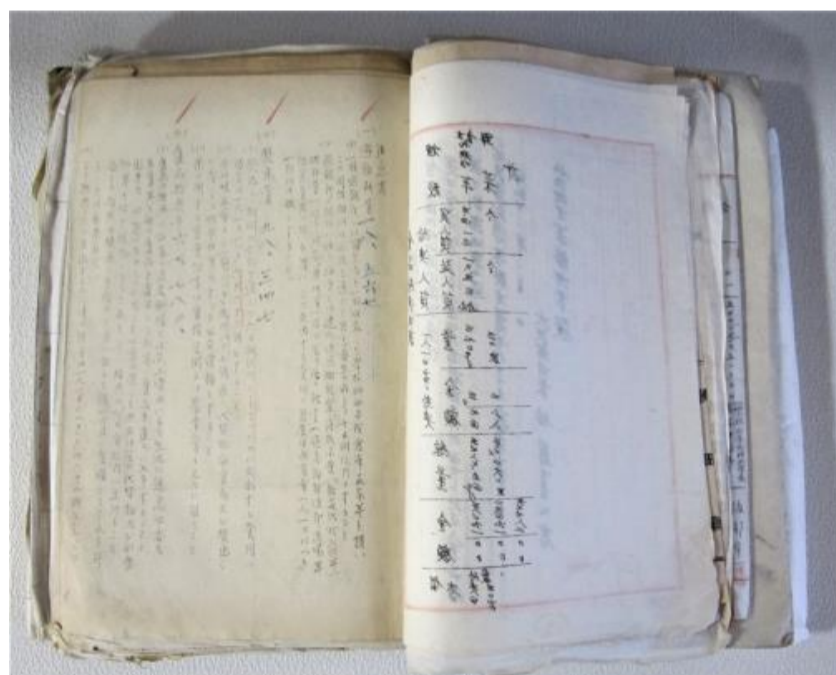
(大曲市役所文書)



葉書 2 通 (明治 43 年)

明治 43 年に発生した豪雨による水害被害の様子について、秋田市の被害状況を知らせた葉書や被害状況を心配する葉書が残されている。

(平瀬家資料)



水害に関する書類綴 (厚生関係) 大沢郷村役場

(昭和 22～23 年)

昭和 22 年に発生した洪水に関する書類。避難所や炊出し、食品などについての注意書きが綴られている。

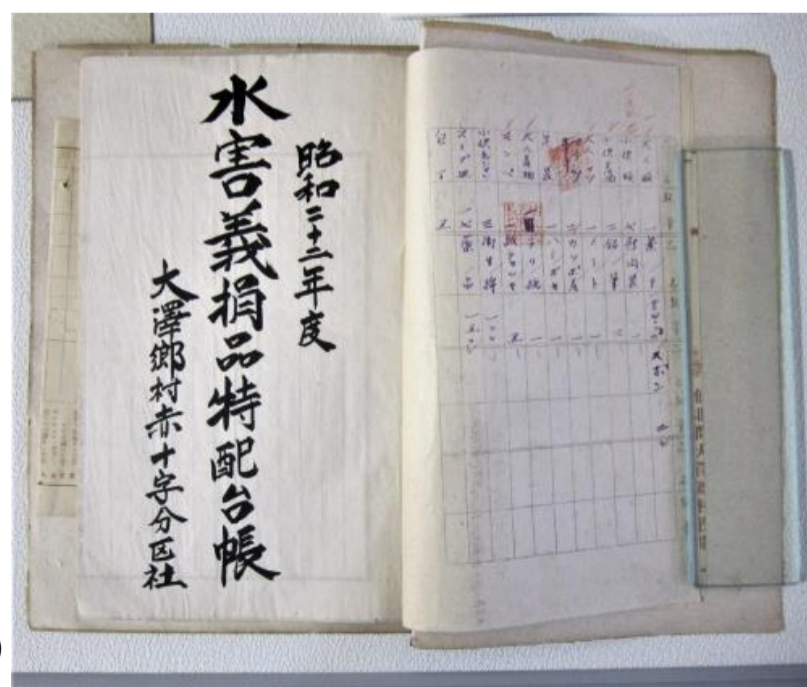
(大沢郷村役場文書)

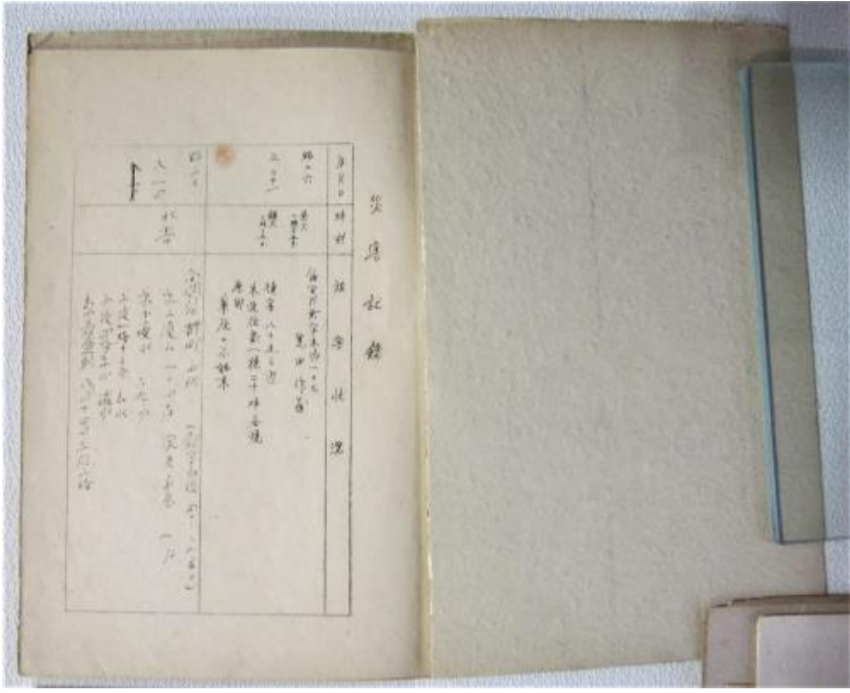
水害家屋に対する義援品特配台帳 大沢郷村

赤十字分区社 (昭和 22 年)

義援品やその分配に関する台帳。

(大沢郷村役場文書)





災害記録 角間川町 (昭和 23 年～)

角間川地域の昭和 26 年～30 年の災害記録がまとめられており、大規模水害以外にも毎年のように洪水被害があったことがわかる。

(大曲市役所文書)



水害見舞金品関係綴 (昭和 26 年)

昭和 26 年の水害に対する義援金品の県内内訳。全県から義援金が集まっているのがわかる。

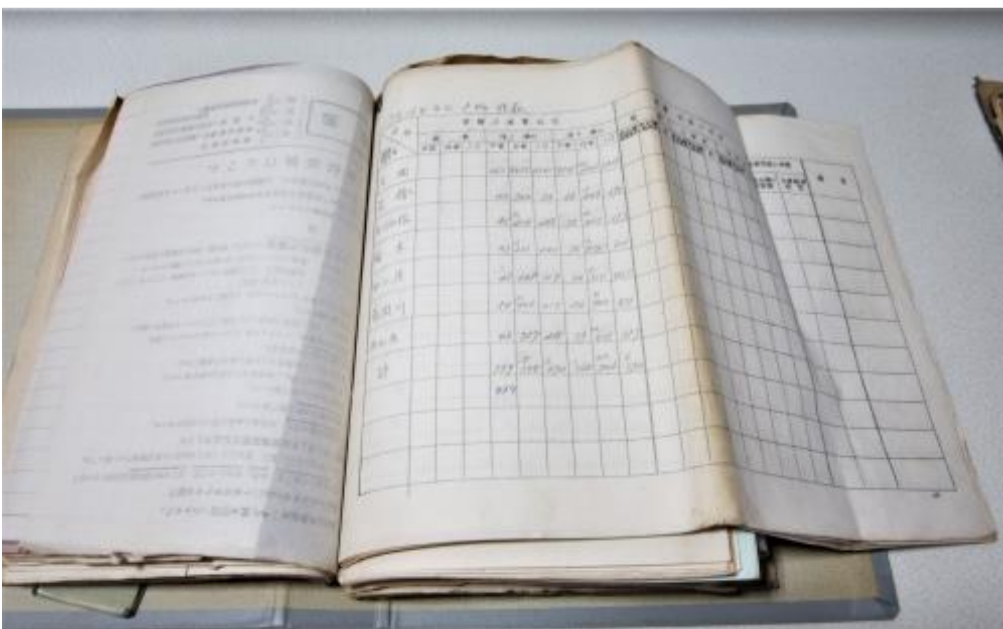
(大沢郷村役場文書)

民生関係書類 災害関係 大沢郷村水災害対策本部

(昭和 26 年)

昭和 26 年に発生した水害の被害状況がわかる文書。個別の被害状況が詳細に記されており、死者も確認できる。

(大沢郷村役場文書)



40.7.15 集中豪雨 水害関係書類 (昭和 40 年)

昭和 40 年 7 月 15 日に発生した集中豪雨による洪水被害調査など。大曲地域の水害の様子は広報写真としても残されている。藤木では第一藤木橋、第二藤木橋がともに流されている。

(大曲市役所文書)



流された橋の代わりに渡し船を待つ人々（昭和33年）

井上一郎写真資料



冠水した道を歩く子どもたち（昭和32年）

井上一郎写真資料



浸水する家屋（昭和40年7月15日）

大曲市広報写真



崩れた橋（昭和47年）

大曲市広報写真



四ツ屋地域（昭和47年）

大曲市広報写真